

電動アシスト自転車＝ママチャリのイメージが強かったのは過去の話。いまはより速く、よりカッコよく街を疾走できるスポーツタイプが充実。走行距離も伸びている。注目の自転車通勤だって電動式ならラクラク。疲れが仕事に影響することもない!

Panasonic

眞パナソニック サイクルテック
お客様相談窓口 ☎ 0120-781-603
http://cycle.panasonic.jp/

シティユースからハイエンド
まで幅広くカバー



ジェットー
JETTER
16万5000円

ワイヤーをダウンチューブ内に収める異型アルミフレーム採用。700C(28インチ相当)サイズのホイールと外装8段ギヤが生み出す力強い走りは、まさにスポーツバイク!

700×32C 外装8段 19.7~19.8kg
バッテリー 8Ah
パワーモード 約36km
オートマチックモード 約38km
エコモード 約49km

目指したのは高機能型の
スポーツ系電動アシスト車

最新 電動アシスト 自転車カタログ

— スポーツモデル編 —



チタンフラットロード EB

**Titanium
Flat Road EB**

58万5000円~69万9000円

軽くて振動に強いチタンフレームをまとった究極のプレミアムモデル。最軽量タイプならわずか15.7kgという軽さでは、まさに驚異! 購入時はオーダーメイドで約30日を要する。

チタンフレーム採用!
完全オーダーメイドの
最高級モデル

26インチ 外装8段 15.7kg~17.3kg
バッテリー 5~10Ah
パワーモード 約25km (50km)
オートマチックモード 約27km (54km)
エコモード 約34km (69km)

女性でも気軽に乗れる
ライトスポーツ系モデル

ラストック
LASTIC
11万9000円

スポーティなフォルムはそのままに、雨が降っても安心の泥除けを前後に装備。しかもサドル位置が低く、女性でも乗りやすいフレーム形状が特長。幅広いユーザー層に適合する。

26インチ 内装3段 20.6kg
バッテリー 5Ah
パワーモード 約20km
オートマチックモード 約24km
エコモード 約32km



モーターの定格出力は250W。踏みに比例した最適なパワーで走りアシストしてくれる。

共通
装備

ジェットー、ハリヤは大容量8Ahバッテリー。パワーモードで36kmの航続距離を誇る。

YAMAHA

株式会社ヤマハ発動機
お客様相談室 ☎ 0120-090-819
http://www.yamaha-motor.jp/pas/

ヤマハ発動機伝統のPASに
スポーツモデルがデビュー!

26インチ 内装8段 21.5kg
バッテリー 6Ah
強モード 約23km
標準モード 約27km
オートエコモードプラス 約35km



低サドル高で乗り降りの
楽なフレームレイアウト

パス ヴィエンタ
PAS VIENTA
13万4800円

内装8段のスポーツモデルながら、低サドル高での乗車を可能とした女性にもやさしいスポーツアシスト車。ハンドル位置とサドル形状も快適性を第一にデザインされている。



美しい乗車姿勢にこだわったライザーバーハンドル。前傾が強すぎず、無理のない姿勢で乗れる。



標準でフロントキャリアを装備。オプションのフロントバスケットが取り付けできるのが実用的。



26インチ 内装8段 23.5kg
バッテリー 8.1Ah
強モード 約31km
標準モード 約36km
オートエコモードプラス 約47km

パス ブレイス エル
PAS Brace L
14万9800円

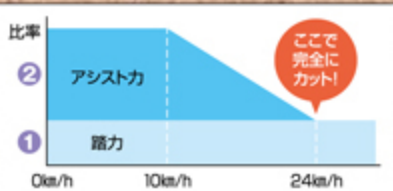
ディスクブレーキと段差に強いフロントサス、軽快な走りのセミスリックタイヤを装備。さらに独自の制御技術S.P.E.C.8との組み合わせで、スポーティなライディングが楽しめる。

フロントサス & ディスク
ブレーキ採用の本格派!



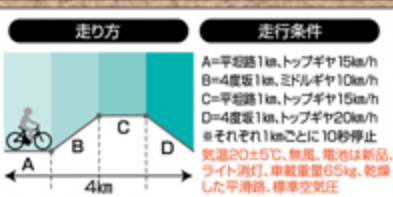
スピード、バッテリー残量、消費カロリーなどを表示できる新開発の液晶メーターを装備。

アシスト新基準(2008年施行)とは?



去る2008年12月の法改正により、従来比2倍のモーターアシストが可能になった電動アシスト自転車。電動補助力は踏力1に対してアシスト2の割合で、時速10km/hを超えると徐々にパワーが減衰。24km/hでアシストがカットされる。

業界統一基準による走行距離



2010年4月に施行された(社)自転車協会制定の基準により、図のような条件下で走行した場合の走行距離を「新標準パターン」として公認。どのメーカーもこれになった走行テストによる走行距離を公称値として採用している。

式が主流となり、走行距離が格段に伸びている。とくにスポーツモデルは全般的にバッテリーの容量が大きく、より行動範囲を拡大できるのが魅力。近年はオートバイの歩道駐車が駐禁の対象となるため、

より自由度の高い電動アシスト自転車にシフトするユーザーが急増中。電動アシスト自転車はすでに原付バイクの出荷台数を上回っており、そうした人々の多くが注目するのがスポーツモデルだ。